自然の躍動と調和を
理想郷をめざす山里の村

熊本県の最東端に位置し、南東に宮崎県が境する本村は、南北二十四キロ、東西八キロの細長い地域で、面積百二十九・三七平方キロを有し、北に阿蘇の五岳を望み、南に九州山脈の連山を展望できる林野と、大自然に囲まれた、静かなそして、空気のきれいな、水の美しい山里である。

この山里には、現在千百三十戸の戸数と、四千七百七十六人の人口が居住している。

ひと頃（昭和三十五年）には、戸数千三百三戸、人口七千七人が居住していたこともあったが、社会の流れには抗し難く、多分に洩れず過疎化が進行した。「農業」立地条件から、農業が主体をなし、したがって農家戸数は七百八十戸と全体の六九％にも及んでいる。

耕地面積は、千百五十ヘクタール、その内水田が五百五十ヘクタールとおよそ五割を占め、生産調整が行われたにもかかわらず、その生産額は三四・八％と首位を占め、次いで、畜産（肉用牛、乳牛）が二四・四％と、従来からの作目が強い。

現在、急速に伸びつつあるのが野菜生産で、すでに高原野菜としての名声も得ており、特に、トマト、キュウリ、ピーマンは、選果機、集出荷場の完成により、共販体制が確立、新鮮さに、味と質の良さを加え、市場での評価も高い。そこでこれが振興を図るべく、現在高能率生産団地育成事業により、基盤造成がなされ、新しい野菜生産団地造りが着々と進められており、完成後の期待が大きい。

この外、養蚕、たばこ、栗等地域性に富んだ作物が生産され、いずれも本村の主要作物として振興促進されている。

「林業」　本村の林野は、広大な面積（林野率七六％）と豊富な森林資源を有しているため、昔日から林業もきわめて盛んであり、農業と共に農家経済の主柱をなしている。近年は植林熱が旺盛で、人工林率の高まりと共に、美しい森林地帯が形成されつつある。又、しいたけは、地域の特産として栽培農家も多く、良質のものが大量に生産販売されている。

「商工業」　本村の場合、商業区域としてまとまった地域はなく、店舗七十一店が集落単位に分布し、日用品等必需品が充足できる程度の店舗構成にある。

工業については、従来からの地場企業はなく、過疎対策の一環として昭和四十八年度に誘致した織物工場がある。

この工場は、綿織物工場と縫製工場からなり、雇用能力男女併せて百名程度であるが、まだ拡充の余地がある。

現在は、男二十五名、女三十七名が従事し押し寄せる不況の中で順調に操業されており、本村の過疎対策に大きく貢献し、地域産業として定着しつつある。

「教　育」　過疎化の進行等が影響し、児童生徒の減少が目立ち、将来の教育行政と、教育の機会場等が危ぶまれる現状から、朝日、小峰、緑川三中学校の統合を英断、本村のほゞ中央に昭和四十七年から校舎等の建設に着手し、四十九年四月に完了し、同時に実質的な統合がなった。

校舎は普通教室三階建一棟十六教室、管理棟二階建一棟五教室、技術棟一棟一教室の三棟からなり、屋内運動場八百七十七平方メートルをも有する完全暖房の近代的な教育設備を整えている。統合時の阻害要因であった通学問題は、現在六キロメートル以上をスクールバス三台と、定期バスによって運行している。現在寄宿舎が建設中であり五十年の新学期から遠距離児童三十名程度がこの寄宿舎を利用することになる。

又国道二一八号線の改良に伴い移転が余儀なくされた清和小学校の建設が四十九年十二月に完成した。この新校舎は、高低学年用に分離される等新方式を採用した学校として注目を集めている。

社会教育の面では、公民館活動が活発で、毎月一日と第三日曜日を農休日と定め、地区館ごとに、それぞれのカラーを出した催しが行なわれており、この活動もすでに住民のものとして、又お互いのものとして深くとけこみつつある。

「観　光」　本村の観光地としては、未開発地のみであまり知られてはいない。しかし、山野と自然に囲まれた秘境が多く、現在でも訪れる客は少なくない。

中でも、県立公園内にある井無田高原は、キャンプ、ワラビ刈り等の適地としてシーズンには格別な賑わいをみせている。

又、緑川の源流は、今だ未開とあって利用者も少いが、緑仙峡と弥し、その渓谷は、原生林を交えた秘境の地で、春の緑と夏の涼、秋の紅葉と冬の霧氷など、規模の大きいことと、美しさは、他に類のない絶景といえる。近時年次的に遊歩道等の施設の整備が進められており、その完成が待たれている。この他、ヤマメ、マス等の養殖が行われており、これ等を含めた将来の観光が本村の産業として脚光を浴びる日もそう遠くはない。

「交　通」　現在中央を横断する国道二一八号線の改良が五十一年度完成を目途に着々と進められており、本村の産業経済と、日常生活を支える重要路線であり、その完成に大きな期待が寄せられている。

（清和村）

わが町 わが村 ＜上益城郡清和村＞ わが町 わが村

▲「高冷地野菜集出荷場」、野菜生産団地の主役として今後に期待がかけられます。

▲「緑仙峡」真夏の別天地です

▲「井無田高原」春から初秋にかけ訪れる客で活気があります。

▲産業経済の大動脈国道218号の改良工事

▲「清和中学校」S49. 4月統合しました

▲ライスセンター内部